

⑮NPO法人ポランの広場

～ 六次産業化+四つ葉のクローバ＝十字産業化 ～

◆6次産業化 ◆医療・福祉 ◆定住・移住



ハウス内のブドウの栽培状況



ログハウスとトレーラーハウス



小学生の農業体験

活動のきっかけ

少子高齢化等、地域の様々な問題・課題に対し、住民自らが課題解決し地域活性化に取り組むため、地域住民の参加を仰ぎ、地域資源・人材を活用した組織を編成。

活動の概要

- ◇農業生産は、畑1ha、パイプハウス11a、養殖場5a、椎茸1,700本等で、各種野菜・各種果樹・アマゴ・椎茸等を通年生産販売。
- ◇「しあわせの杜」でピザ・バーベキューを提供。来年度から農産物加工食品を販売予定。
- ◇各種農業施設を開放し、地域住民をはじめ農業体験希望者に農業体験コースを提供。
- ◇定住促進の一助となるトレーラーハウス3台とログハウス1棟、6畳と8畳の2部屋を管理。
- ◇農の持つリフレッシュ・リハビリ効果を生かすため、医療機関・福祉施設等と協働。

活動の成果

- ◇地域が抱える様々な課題・問題に対し、農業生産、農産物加工食品化、農業体験、遊休農地対策・空き家空き店舗対策、都市と農村交流、農村景観等について活動実績ができた。
- ◇農業体験は果樹・野菜・アマゴ・ピザ・高齢者・障害者などの12コースを実施。
- ◇一般社団法人MOAインターナショナルと有機農法・統合医療で協働事業を模索。MOAと統合医療の共同研究をはじめ、実践部門を担当。
- ◇地元の高齢者及び女性の雇用の場として期待され、高齢者の憩いの家・地域住民の集いの場としての役割もあり、地域住民の福祉の向上の一助となっている。

問合せ先

〒509-6362 岐阜県瑞浪市陶町水上267-1
TEL:090-4187-5309 FAX:0572-65-2358

⑩健幸あじさい街道

～ あじさい街道ウォーキングで健幸に！～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆子ども(教育・体験)



ウォーキング



あじさい植樹



農業用水路のPR

活動のきっかけ

正木町のシンボルであるあじさいへの親近感の醸成と高齢化が進む地域の健康増進を目的として、平成2年に地域の有志で「健幸あじさい街道」を組織し、日本一のあじさい街道を目指して、ウォーキングイベントを企画。

活動の概要

◇親水機能が整備された羽島用水上面道路(約2km)にあじさいを植樹して管理を行い、地域住民を対象にウォーキングイベントを開催。

◇ウォーキングに併せて、正木町文化芸能振興会と協力し、地域に伝わる正木音頭やあじさい踊りの披露や子どもの写生大会、園児による俳句の出展などに取り組むほか、羽島用水土地改良区と協力して、農業用水路の紹介やウォークラリー、センパラ等の生き物紹介も実施。

活動の成果

◇ウォーキングイベントはこれまでに21回開催され、毎年約300～400人が参加し、健康増進に加え、地域住民が正木町のシンボルのあじさいに親しむ場が提供され、親近感が醸成。

◇あじさいが植栽された道路や水路がパイプライン化された農業用水路の上部利用であることをPRすることで、農業用水の役割や用水路が生活環境の一部となっていることを再認識。

◇子ども達が、地域の自然、農業及び伝統文化を題材とした教育の場を提供。

◇イベントを通じ、世代を超えて地域の親睦が深まるとともに、正木町の伝統芸能である踊りなどが、親世代から子世代に伝承。

問合せ先

〒501-6229 岐阜県羽島市正木町坂丸4丁目54-2 (正木コミュニティセンター)

TEL:058-392-6655 FAX:058-392-2822

⑰株式会社えな笠置山栗園

～「めざせ 日本一」 楽しい日本一の栗づくり ～

◆企業 ◆雇用 ◆その他(まちづくり(地域の発展))



農業体験の受入



感謝祭で市民と触れ合う社員



雨の中、栗苗木を植える小学生

活動のきっかけ

長年の課題となっていたグリーンピア恵那跡地の有効活用を目指し、平成21年地元の検討会が栗園の開発を合意、生産組合を設立し栗栽培を開始、平成28年5月株式会社として法人化。特産品の栗の栽培拡大と地域住民の「まちづくり」を実施。

活動の概要

- ◇農業、栗栽培への地域や若者・子供の関心を高めるため、栗園において、市民、農業高校生や子供を招待して植樹祭(栗苗木の新植)を開催。秋の収穫期には、感謝祭、収穫祭を開催。
- ◇地域福祉を担うNPO法人「まめに暮らそまい会」と連携し、不良栗果を「むき栗」に活用。
- ◇(一社)恵那市観光協会と連携して、栗拾い及び選別体験、棚田百選の「坂折棚田」棚田の見学、NPO法人まめに暮らそまい会での「栗きんとん」製造体験等の体験ツアーを実施。
- ◇全国農協観光主催の援農ツアー(田舎暮らし体験)を受入れ、農作業体験の機会を提供。

活動の成果

- ◇栗園開設(H29年:約16ha、約6,500本)により地域の住民が農業や地域づくり活動に取り組み、植樹祭、収穫祭などの開催により、地元の若い世代へ栗園や農業に対する関心が高まる。
- ◇株主は60～70歳代が中心であるが、現役世代の者3人を含み、栗園で働きたいとの問い合わせも複数届いており、夢である現役世代への経営引継ぎの端緒が見え始めた。
- ◇特産品の「栗きんとん」など栗菓子製造のため、原料の栗増産とあわせて恵那市観光協会と連携し観光栗園事業による交流人口増加にも寄与。

問合せ先

〒509-8231 岐阜県恵那市中野方町1710番地3
TEL:0573-32-1598 FAX:0573-32-1598

⑱特定非営利活動法人恵那市坂折棚田保存会

東海農政局選定

～ 水源の森を守り、美味しい棚田米づくり ～

◆自然・景観 ◆「食」の提供・活用 ◆その他(水源の森保全活動、木の駅プロジェクト)



「石積み塾」石垣の補修



田の神様灯祭り



山ガールの間伐作業
(水源の森実行委員会)

活動のきっかけ

平成11年に日本棚田百選に選定され、平成15年の第9回全国棚田サミットの当地開催を契機に、棚田・里山の保全活動を開始。平成20年にNPO法人恵那市坂折棚田保存会を発足。平成24年に棚田水源域を整備(涵養林づくり)のために「水源の森実行委員会」を立ち上げ、木の駅プロジェクトに参加し、緑のダムづくりに取り組む。

活動の概要

- ◇「森の健康診断」による間伐や水源地調査、木の駅プロジェクトへの参加等で、棚田の用水確保のほか、災害防止や獣害対策等多様な役割を持つ里山と棚田を一体で保全する活動を実施。
- ◇土づくり、施肥管理、低農薬、天日干し等の品質管理により棚田で食味の良い米を生産。
- ◇伝統的な石積みの技法を習得する「石積み塾」を開催、技術の習得と石垣の補修を行う。
- ◇平成17年より稲作のオーナー制度を開始、各種の体験やイベントを通じ都市住民と交流。

活動の成果

- ◇棚田の水源域140haの山づくりに「水源の森実行委員会」を中心に年間延べ約250人が参加。林地残材を木の駅へ搬出し地域通貨(モリ券)に替えることで山づくりへの意識が向上。
- ◇美しい石積み棚田の景観、稲作オーナー制度等の体験、「田の神様灯祭り」「刈り株祭り」等のイベントの充実により、訪問者数がH23年の4,361人からH28年は8,273人に倍増。
- ◇品質管理のもと棚田で収穫された米を坂折棚田応援米として販売、食味良好と高い評価。

問合せ先

〒509-8231 岐阜県恵那市中野方町782-1
TEL:0573-23-2032 FAX:0573-23-2046

⑪岐阜県郡上市和良町宮地自治会

～ 奥美濃平成の里人＝宮地集落 ～

◆自然・景観 ◆伝統・継承 ◆鳥獣被害防止



用水路法面に芝桜ロード造成



畦畔の抑制ネット・シート設置



退散鳥獣(銃)と絆ベストで追い払い

活動のきっかけ

少子、高齢化、農業の担い手不足、鳥獣被害で遊休農地の増加が懸念され、住民の拠所で誇りである神社・祭礼文化の継承が困難になり、集落の愛着と絆が失われることの危機感から、集落をあげて地域資源を活かしたむらづくり活動を平成9年に開始。

活動の概要

- ◇水田と稲作を守るため、各種の鳥獣侵入防止柵「猪鹿鳥無猿柵」^{いのしかちやうむえんさく}を集落内に手づくりで開発し実証、設置。また、鳥獣追い払い花火発射装置「退散鳥獣」^{たいさんちやうじゆう}の開発、実証、普及。
- ◇雑草抑制ネット、防草シートを水田畦畔、農道・用排水路の法面に設置し、除草を省力化。また、防草シートマルチにより用水路法面に芝桜ロードを整備し農村景観を整備。
- ◇戸隠神社、御神木の「一本杉」、古代御神体の「重ね岩」等の維持保全管理。地域の案内看板やマップを作成。祭礼行事への都市住民の参加促進や、伝承組織を育成。

活動の成果

- ◇鳥獣被害防止対策活動、耕作放棄対策活動の中で、各種器具、機材、施設を開発し、実証・展示。全国からの研修視察により、開発した器具等が全国へ普及。
- ◇有害獣の捕獲推進から、獣肉処理加工施設「和良地美恵工房」がオープン。
- ◇雑草対策により、担い手への農地利用集積が進展。また、耕作放棄地が解消。
- ◇農村環境が良くなり、集落の絆も深まり、暮らしやすいと評判で、県内外から移住に繋がる。
- ◇神社、祭礼について情報発信やイベント等によって、観光資源としての認知度が広まる。

問合せ先

〒501-4292 岐阜県郡上市八幡町初音1727-2(岐阜県郡上農林事務所)
TEL:0575-67-1111(内線241) FAX:0575-67-0961

②竹原農地・水・環境保全会

～「美しい田園・頑張る農村！」いやしの里 竹原～

◆自然・景観 ◆国内観光 ◆6次産業化



稲刈り体験ツアーで都市住民と交流



「かわら版」の発行



満開の芝桜

活動のきっかけ

竹原地区は2度の合併で地域の連帯感や住民同士の意思疎通の希薄化・伝統文化の継承等に危機感を抱いていた。平成19年4月に農地・水・環境保全向上対策に取り組む4組織を結成、各代表を中心に農村環境の保全と竹原地区の連帯感再生のため全住民を会員とした本会を設立。

活動の概要

- ◇農道、農業用水路の土手に芝桜などの花を植え、「花の見どころスポット」を整備。
- ◇棚田や休耕地を活用して、そば畑や花の見どころを整備、各地区には「ふれあい農園」を開設し、トモロコシ等の体験作業に毎回130名程の参加があり世代間の交流に寄与。
- ◇地元産米(銀の^{みかずき}胼)を使い五平餅を考案(6次産業化)し、H28年度は約200万円を販売。
- ◇平成25年度より隣市の中津川市の若手農家と地元農家が共同で、市境の峠において「うまいもん祭り」を開催、人気イベントで1日5,000人の集客。

活動の成果

- ◇花の見頃には下呂温泉から、観光客の来訪が年々増加しH29年度は3,500人以上。
- ◇地域全戸参加の取組により地域の結びつきが強まり、特にふれあい農園での体験作業を通じ高齢者の生きがいと子どもたちの農業・農村に対する理解が深まった。
- ◇活動情報の共有を図る「かわら版」を発行し、住民の自発的な環境保全・景観整備活動が活発となった。地区外からの入り込み客の増加に伴い、自主的に四季折々の花を植える等住民におもてなしの心が芽生え個々のむらづくりに対する意識向上が図られた。

問合せ先

〒509-2313 岐阜県下呂市 野尻861番地1
TEL:0576-26-2519 FAX:0575-26-2519